



# 業界初となった “タイゴルフ場協会” とのミーティング

## ミーティング参加者

### ■タイゴルフ場協会

Mr.Pornchai Kittipanya-ngam  
タイゴルフ場協会・副会長  
ロータスバレーゴルフリゾート（18H）・代表  
Mr.Dave  
タイ・CC（18H）・代表  
Mr. Chawalit Chanarat  
ロイヤルラチャブリーGC（18H）・代表  
Mr.Suchart Suwannasri  
ザ・エメラルドGC（18H）・代表

### ■タイ国政府観光庁・本庁

鹿野健太郎氏  
スポンサー・スワンナスイー氏

### ■日本

國安玲佳社長【男鹿GC（秋田、18H）】  
小林祐治社長【サニーCC（長野、27H）】  
北村太一社長【サザンクロスリゾート（静岡、18H）】  
伊藤隆弘統括キーパー【宇部72CC（山口、72H）】  
日高充副代表【AIE】

本誌5月号では、タイ国政府観光庁（TAT）大阪事務所と、インバウンドゴルフツアー集客のAIEが協賛で、2月20日から24日の5日間にタイのバンコク、チョンブリで開催した『海外提携ゴルフ場視察旅行「タイ」』の様子を8頁（カラー2頁、本文6頁）にわたって取り上げた。

提携交渉可能な、三つの異なった種類のゴルフ場で視察ブレイを行った。実質最終日となった2月23日はトーナメント開催実績もある、名門「タイ・CC」でブレイ後、会議室にて『タイゴルフ場協会』（THAI GOLF COURSE ASSOCIATION（TGCA））とのミーティングを行った。

タイのゴルフ場経営者が日本のゴルフ場経営者と情報交換をするのは初の試み。このミーティングには、タイゴルフ場協会に加盟している、4コースのゴルフ場経営者の他、タイ国政府観光庁（TAT）の本庁から2名が参加した。5月号のタイツアー報告では、誌面の都合でミーティングの内容を掲載できなかったため、本号ではその様子を取り上げたい。

今後、日本のゴルフ場、ゴルフ団体と提携を視野に

タイゴルフ場協会・副会長

Mr.Pornchai Kittipanya-ngam

「本日は遠いところからわざわざお越しいただき、ありがとうございます。私はタイゴルフ場協会（TGCA）の副会長、Pornchai Kittipanya-ngamです。今回は私も含め、タイのゴルフ場協会に加盟している4コースの代表が参加しています。」

まず初めに当協会についてですが、タイ国内の約70コースのゴルフ場が加盟しています。最近の日

Mr.Pornchai Kittipanya-ngam（TGCA副会長）



本との関わり合いです。2カ月前、日本のジュニア選手が合宿のため、タイにお越しいただきました。そして先日、バンコク中心部にある、『ロイヤル・バンコク・スポーツクラブ』が日本のゴルフ場と提携を結びました。TGC Aとしては、視察も兼ね過去に一度、日本のゴルフ場へ行ったことがありまして、今年三重県へのゴルフツアーを予定しています。今回のミーティングを機に、今後タイと日本のゴルフ場が良い関係を築けることを切に願っています。今日は日本のゴルフ場経営者の皆様にお会いできて本当に嬉しいです。皆で力を合わせ、お互い良いヒントを得られるような会にしていきたいと思っています。



Mr. Dave (タイ・CC代表)

ーム内には、通常のシャワーの他に大浴場を完備しています」

**タイ・CC代表**

**Mr. Dave**

「私はタイ・CC代表のDaveです。当クラブは1996年12月にオープンした18Hのゴルフ場です。バンコク中心地からは約50分、スワンナプーム国際空港からは車で約30分と抜群の場所にあります。世界的に有名なホテルグループ「ベニンシュラ」が経営しています。1997年2月のホンダクラシックで、タイガーウッズが海外で初優勝を飾ったことで注目を集めま

した。オープン当初は基本的にプレーは会員のみでした。会員の36%は日本の方で、50%はタイ人、それ以外はヨーロッパや中国の方です。数年前から経営方針が変わりまして、会員でなくてもプレーできるようになりました。そして今も昔も一番力を入れているのは、サービスと品質です。ベニンシュラホテルの経営ですのでホテル同様、来場者はコースメンテナンス、フロント、レストラン等すべてにおいて、五つ星のきめ細やかなサービスを受けることができるのが最大の特徴だと思います」

**ロイヤルラチャブリーGC代表**

**Mr. Chawalit Chararat**

者としてだけでなく、一人のゴルフファアとして日本のゴルフ場について思うことがあります。現在、タイ人はビザなしで日本に行くことのできることで、人気の観光地です。しかし、タイ人が日本へゴルフに行くことがほとんどないのです。なぜかという点、どこに行けばいいのか、どこで予約したらいいのか、そして日本のゴルフ場のマネージャーはどうなっているのかもわかりません。タイの「ゴルフファア」としては、日本のゴルフ場は謎に満ちた場所です(笑)。日本は数多くのゴルフ場があるようですが、私



Mr. Chawalit Chararat (ロイヤルラチャブリーGC代表)

の知人でも日本でプレーしたことがあるのは、ほとんどいないです。もし知識やデータがあれば、タイ人のゴルフファアは日本にプレーしに行きたいと思っています。なぜならば、タイ人は日本が大好きだからです。日本は料理もおいしいですし、四季もあり、景色も良いです。日頃、タイのゴルフファアを日本に送客するようなプランを考えています」

### ザ・エメラルドGCC代表

#### Mr. Suchart Suwannasri

「私はザ・エメラルドGCCの代表であるSuchart Suwannasriです。当クラブは、以前はラヨン・センチュリーCCでしたが、3年前ほどから、経営が代わりザ・エメラルドGCCになりました。ニック・フアルドとデズモンド・ミューヘッドの共作のゴルフ場で、広大な敷地の丘の中腹に位置し、自然の樹木が美しいゴルフ場です。しかも車で少し走れば、有名なパタヤビーチもあります。タイ東部に位置しており、パタヤ中心部から車で約1時間、バンコクから車で約2時間の場所にあります。当クラブにはホテルは併設していませんので

Mr. Suchart Suwannasri (ザ・エメラルドGCC代表)



ですが、やはりパタヤは有名な観光地ですので、宿泊先には困らないエリアです。現在の海外からの利用者は、中国、アメリカ、ヨーロッパの方が半数以上を占めています。日本人の方はあまり来ていません。日本の方にはバンコクに近いエリアのゴルフ場が人気のようです。日本の方にはバンコク以外ですね。パタヤですので、ゴルフ以外の楽しみも多数あります。海水浴場もあり、日本の方が好きなタイのフルーツも堪能できる場所です」

「ここで日本側からTGCAへの質問を——  
タイゴルフ場協会の概要について

教えてください。

**TGCA**「当協会は約20年前に発足し、現在タイ国内のゴルフ場が約70コース加盟しています。主な活動内容についてですが、基本は加盟コースからの相談を受け、アドバイスをする事です。タイは法律の改定が多いので、土地に関する法律の相談や税金についてのアドバイスをし、助け合うケースが多いです。それと毎年、加盟コース35カ所で開催しています。優勝者を海外のゴルフ場に連れて行くという形式を取っています。昨年の実績で言うと、海外のゴルフ場は中国です。日本のゴルフ場とは今まで付き合いがなかったのですが、日本を選択したことはないです。今回の出会いを機に日本のゴルフ場も今後、検討していきたいと思っています。そのためにも、TGCAの役員で日本のゴルフ場を見学しに行きたいと思っています。その他、タイの企業と協力して大会を開催しています。現在は、チャーンビールで有名な大手企業『タイ・ビバレッジ』とタイアップして大会を開いています。

TGCAのもう一つの主な役割としては、ゴルフ場の経営者達の

ネットワーク構築です。法律問題だけでなく、コスト削減など経営に関する点や新しい技術、製品を共有する点等です」

「日本のゴルフ場と日本人ゴルフファアの印象は？」

**TGCA**「日本のゴルフ場の情報が皆無に等しく、謎に満ちている部分が多過ぎて何とも言えません(笑)。どこもプレーフィが高いイメージがあります。海外でプレーするタイのゴルフファアは実は意外と多いのです。オーストラリアやアメリカにプレーしに行くタイ人は結構いるのですが、日本にはほとんど行っていないですね…。一番は言葉の問題でしょうが、マナーや文化の違い、移動手段や場所など二次交通の問題、色々要因がありますね。本場に日本のゴルフ場の情報が全くわからない状態なのです。結局、タイ人は英語圏の国に行ってしまうのが現状です。言葉が通じないと、やはり案内人がいるツアーでないと厳しいと思います」

「タイ国政府観光庁(TAT)の調査データによると、タイには年間約3500万人の観光客が来ており、そのうちの1・6%、つ



鹿野健太郎氏（TAT本庁）

まり56万人がプレーしに来ていますが、タイのゴルフツーリズム成功の要因は何でしょうか。

**TAT鹿野** 「私はTAT本庁で、日本市場のアドバイスをしています。昨年2017年は、世界中から3500万人の方がタイにいらつしました。日本人は史上最高の154万人を記録しました。今年2018年はさらに伸びるとされており、3700万人と予測されています。日本人もさらに増加し、少なくとも156万人と予想しています。昨年、ゴルフのためにタイに来た方が全体の1・6%でしたが、ビジネス等で来てプ

レーする方も多いので、実際の数はもう少し増えると思います。

そして、なぜタイのゴルフツーリズムがこれだけ成功しているかというと、一番大きな要因はやはりタイのゴルフ場の持つクオリティの高さと、サービスの素晴らしさに尽きると思います。具体的には、キャディがゴルフアー一人に対し、一人付くこと、そしてキャディの能力の高さが挙げられると思います。英語を話せ、理解できるキャディも多いですし、日本人が多かったり、日本に注力しているゴルフ場では、日本語を訓練しているところも多いです。その他、中国語や韓国語の訓練をしているゴルフ場も少なくないです。各国のニーズに合わせた対応をしているのがタイのゴルフ場の特徴です。タイは海外ゴルファー向けに、ニーズに特化したプロモーションをTGCAと一緒にしています。またタイCCで言うと、日本人や韓国人のビジターだけでなく、タイに駐在してい

最後にこぼれ話

余談だが、今回のTGCAとのミーティングでは、業務提携やツーリズムの他、キャディの雇用や人員の確保の話も出た。ミーティング会場であったタイCCでは、マスター室前にキャディの評価を行うこのような箱があった。プレー後、ゴルファーがキャディの顔写真と名前、キャディナンバーが記載されたカードを箱の中に入れるのだが、良い票の数で評価も上がり、悪い票が多いと再教育というシステムらしい。シンプルだが、ちょっと気になったので掲載した（本誌記者より）。



タイCCの“CADDIE SERVICE EVALUATION”

る方の利用もかなり多く、その方々の口コミの影響がすごく大きいです」

なお、ミーティングの最後にはTGCAからは、日本のゴルフ場数や平日、祝日のプレーフィ、TGCAのようなゴルフ団体の数、従業員数や雇用方法についての質問があった。

——ミーティング終了後——  
「今回、初の試みとなったTGCAと日本のゴルフ場経営者とのミーティングは、今後の相互の発展

にとつて非常に意味のある布石になったと感じました。TGCAとしては日本全国のゴルフ場とだけではなく、日本のゴルフ団体とも関係性を築いていきたいと話していました。日本ゴルフ場経営者協会（NGK）など、日本のゴルフ団体に積極的に働きかけを行い、日本とタイのゴルフ場経営者との国際親善交流の架け橋になりたいと強く思っています」（今回コーディネーターを務めたAIEの日高副代表）